

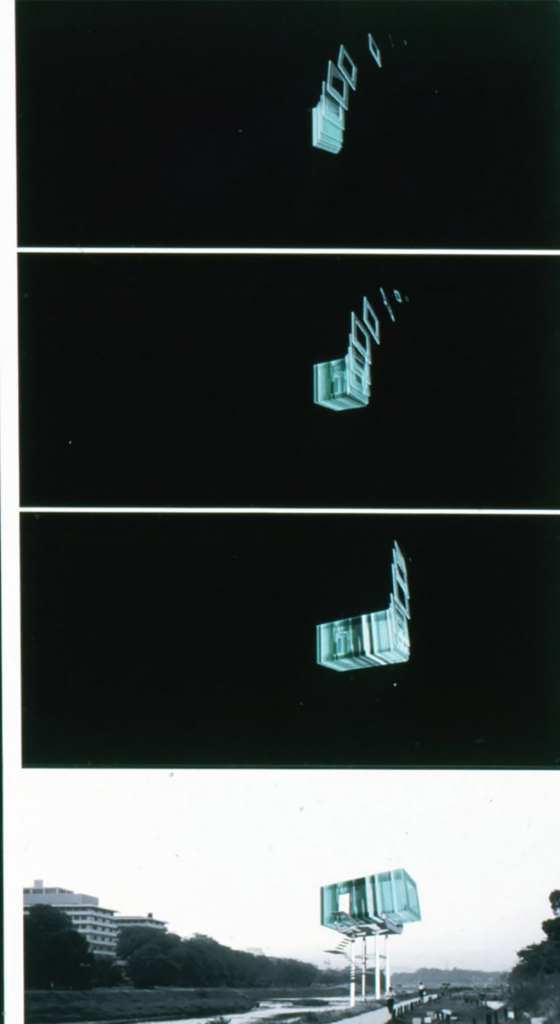
ガラスには大きく分けて「透過」とそれ以外の「反射・屈折・そしてわずかの光の吸収」という二つの性質がある。前者は、いわばガラスの「モノ自体であることの隠蔽」であり、後者は「モノ自体であることの主張」である。

これは、ガラスの二つの性質の同時存在の可能性を探るための、五つの小さなフォーリーの提案である。

板ガラスを横に並べてヴォリュームをつくり、そこから空間をくりぬくという手法からできている。「ヴォリューム化」されたガラスは二つの性質を持ち始める。ガラスと直行する方向は透明の、小口方向にははっきりと幻想的なガラスの色が浮かび上がる。すなわち、前者の方向では透過性を示し、後者の方向ではモノ自体の持つ質感・色を示すのである。

鉄分による淡い青や緑、乱反射や屈折によって演出される周辺環境と内部空間の幻想的な難がり・空間性。そしてもちろん直接的な透過性…工業製品としての板ガラスからこれらのガラスの持つ多様な性質を最大限引き出すことがこのプロジェクトの目的である。

鴨川と光の川（ヘッド・ライト）の間に浮かぶ五艘の船…それが GLASS SHIP



GLASS SHIP / The 5th Space Design Competition

